

平成25年度 第1回
視聴者のみなさまと語る会開催報告書
平成25年5月18日大分放送局開催
(案)

< 会合の概要 >

「経営委員会による受信者意見聴取」の平成25年度第1回は、大分放送局で実施し「経営全般」「放送」の二つのテーマで公募による59名の視聴者のみなさまからご意見を伺った。

< 会合の名称 >

「視聴者のみなさまと語る会 ～NHK経営委員とともに～」in大分

< 会合日時 >

平成25年5月18日（土） 午後2時～4時

< 出席者 >

【視聴者】	公募による視聴者59名
【経営委員】	石原 進 （委員）
	北原 健児 （委員）
	竹中 ナミ （委員）
【執行部】	吉国 浩二 （専務理事）
	上滝 賢二 （理事）
	早見 英一 （大分放送局長）
【司会】	野村 正育 アナウンサー

< 会場 >

大分放送局 2階 キャンバスホール

< 開催項目 >

以下の通り進行した。

1. 開会あいさつ

2. 経営委員による説明

協会の基本方針その他協会の運営に関する重要な事項について

3. 意見の聴取

(1) NHKの経営全般について

(2) NHKの放送について

4. 閉会あいさつ

「視聴者のみなさまと語る会」終了後、「平成26年大河ドラマ『軍師官兵衛』制作の舞台裏」と題して、中村高志CP（制作局ドラマ番組部）によるトークショーを開催した。

< 概要・反響・評価 >

- ・公募の結果、はがき、ホームページなどを通じて計90名から参加の申し込みがあり全員に案内を送付した。その際、参加者の意見把握と参加意志の確認のために事前アンケート調査を実施したところ、50名の方が参加すると答えていた。当日は59名のみなさまが来場された。なお、事前アンケートで寄せられた意見などについては、とりまとめて当日、参加者へ配付した。
- ・「経営全般」と「放送」の二つのテーマを設定し進めた。参加者からは、受信料、経営委員の構成、NHKの民放化に対する批判、ローカル放送の充実、NHKの報道姿勢に関する要望など多岐にわたる意見や提言があった。
- ・終了後、意向集約のアンケート調査を行ったところ56名の参加者から回答をいただいた。
- ・参加者の満足度については、「大変満足」11名（19.6%）、「満足」26名（46.4%）、「普通」8名（14.3%）、「不満」4名（7.1%）、「大変不満」1名（1.8%）、未記入6名（10.7%）という回答であった。
- ・また、回答者の51.8%にあたる29名の方が「経営委員会の仕事を知らなかった」としていたが、「語る会」の終了後は、「よく知っていた」「知っていた」と答えていた方も合わせて67.9%にあたる38名の方が「経営委員会の活動について理解が深まった」と回答した。

《 協会の基本方針・重要事項の説明 》

（石原委員）

初めに、経営委員会の役割について、ご説明をいたします。経営委員会の役割は放送法に明文化されています。NHKの経営の基本方針などの議決や、会長以下NHK執行部の役員の業務の監督など、NHKの経営に対して重い責任を負っております。この経営委員会の委員は衆参両議院の同意を得て、内閣総理大臣により任命されます。委員の選任に当たっては、教育、文化、科学、産業その他の各分野及び全国各地方が公平に代表されることを考慮しなければならないと、放送法で定められております。経営委員の任期は3年で、再任もあります。委員の定数は、12名となっています。

また、経営委員の中から常勤の委員でもあります井原委員と、上村委員、渡邊委員の3名が現在監査委員に任命されており、経営委員会を含めた役員

の職務の執行を監査する役目を担っています。

私ども経営委員が、ただいま申しましたような職責を果たすため、視聴者のみなさまのご意見を直接伺うことも定められています。本日はその機会として、みなさまからNHKに対する忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思っておりますが、会合においては経営委員が協会の基本方針や重要事項を説明するという定めもございますので、いまして少しお時間をいただいて、平成24年度から26年度までの3か年のNHKの経営計画と、平成25年度の収支予算と事業計画について簡単に触れさせていただきます。

初めに、24年度から26年度までのNHK経営計画についてご説明します。計画は、信頼される公共放送として、放送機能の強化と放送サービスのさらなる充実を図り、豊かで安心できる社会の実現と新しい時代の文化の創造に貢献するという基本方針のもとに4つの重点目標で構成しています。基本姿勢として、公共放送の原点に立ち返り、その役割の達成を目指すことを強く意識しています。

重点目標一つ目は、「公共」です。東日本大震災でのさまざまな体験や教訓を生かし、いかなるときにもみなさまの安全、安心を守るための情報をいち早く、正確に提供する放送機能を強化します。

2つ目は「信頼」です。世界に通用する質の高い番組、そして日本、地域の発展につながる放送やサービスの充実に取り組みます。

3つ目は、「創造・未来」で、進展する放送と通信の融合時代にふさわしい新しいサービスの充実を図ります。

4つ目は「改革・活力」です。効率的な経営を行い、公共放送の価値を高めるとともに、受信料制度をご理解いただき、受信料の公平負担に向けて努力をします。以上4点を重点目標としています。

なお、視聴者のみなさまへ受信料を還元するために、NHKにとっては事実上初めてとなる受信料の値下げを昨年10月から実施しています。前の平成21年から23年度の経営計画の中で、24年度に受信料を還元するというをお約束しました。還元率は10%の計画でしたが、大震災が起こりましたので、災害に対する対策等を行い、7%の値下げを行いました。

次に、平成25年度収支予算と事業計画についてご説明します。25年度は先ほどご説明した、3か年経営計画の2年目として、引き続き掲げた4つの重点目標に取り組みます。

事業収入は、24年度に対し10億円の減少、6,479億円という計画です。受信料については、昨年10月から行った値下げの通年化により、減収の影響が大きくなりますが、組織を挙げた営業活動で増収を図り、6,221億円を確保する計画です。

事業支出は、国内放送や国際放送の番組の充実、あるいは公共放送の機能強化の拡充・前倒しを行う一方で、事業運営の一層の効率化を行うということで、24年度に対して10億円を抑制して、6,479億円とします。

また、経営計画で見込んでいた47億の赤字に対して受信料等で28億円の増収を図り、一方で効率的な業務運営、つまり支出の見直し削減によって、18億円抑制することで収支均衡予算としました。

次は受信料収入についてです。先ほどの説明でも触れましたが、昨年10月からの値下げが一年を通して実施されるため、25年度は通年で224億円の減収影響が発生します。しかし、これをこのままの赤字とするわけにはまいりませんので、受信契約件数の増加などにより、134億円の増収を図ることで、6,221億円の受信料収入の確保をする方針です。

続いて、25年度の重点事項の具体的な内容をご説明いたします。「1. 公共」では、公共放送の機能強化と東日本大震災からの復興支援を行います。公共放送の機能強化については、南海トラフ巨大地震による被害想定の見直しに対応し、設備投資の拡充や計画の前倒しを実施します。機能強化の具体的な内容としては、東京の放送センターの機能が停止した場合に備えて大阪放送局にバックアップの機能を整備するほか、津波等による長時間停電に備えて各地域の放送会館や、テレビ・ラジオ放送所等の電源設備の強化等を行います。

次の「2. 信頼」は、世界に通用する質の高い番組と地域放送サービスの充実についてです。国内放送では各チャンネルの特性を生かして多様で質の高い番組を放送するとともに、今後、第23回の参議院議員選挙放送や冬季「ソチオリンピック」あるいは「パラリンピック」の放送などに力を入れてまいります。

国際発信力の強化では、NHKワールドTVの英語によるニュース『NEWS LINE』を平日は毎正時ごと30分に拡大して放送します。

地域放送では、地域の放送局が地元を舞台にしてドラマを制作し、全国に向けても積極的に発信してまいります。

「3. 創造・未来」は、放送と通信が連携する時代にふさわしい、新しいサービスについてです。「スーパーハイビジョン」（8K）の実用化に向けた研究開発に積極的に取り組むとともに、「ハイブリッドキャスト」については、25年度から試行的にサービスを行います。また「NHKオンデマンド」につきましても、コンテンツを充実し、あわせてプラットフォームの拡大などで利便性を高め、利用者の拡大を図ります。

「4. 改革・活力」では、公共放送の価値の最大化のため、視聴者の皆様からの評価に基づく、NHK独自の手法により経営計画の達成状況を管理・

検証していきます。

以上が25年度収支予算事業計画の説明でございます。最後になりますが、ただいま、ご説明しました経営計画、ならびに25年度の事業計画を着実に実行するためにも、視聴者のみなさまからいただくご意見やご要望は大変貴重と考えております。本日、大分放送局にお集まりのみなさまから頂戴のご意見、ご要望は、私ども経営委員全員はもちろん、執行部とも共有して、今後のNHKの経営に反映させてまいりたいと考えております。よろしくお願ひします。

《視聴者のみなさまからのご意見とNHK側からの回答》

第一のテーマ：NHKの経営全般について

【会場参加者】

受信料のことで聞きたい。NHKが映れば誰もが受信料を支払わなければならないのだろうが、全体では、何%の人が受信料を支払っているのか？

【会場参加者】

自分は、NHKは見ない、民放だけ見るので、受信料を払わないでいいんだということを聞いたが、このような理屈が通るのか聞きたい。

（石原委員）

みなさんご承知の点とは思いますが、NHKは受信料で経営が成り立っています。そして、NHKの放送には、公平・公正、不偏不党、といった原理原則があります。民放のようにコマーシャル収入で運営されているわけではなく国民全員がこうした社会的に極めて重要なインフラであるNHKを、受信料によって維持するという基本的な考え方でNHKはできています。放送法の考え方は、公平公正、不偏不党の放送を常に流す努力をNHKはしなければならない。それを視聴する国民がそれぞれ、それについて自分の考えで判断をしていく、そういう考え方に立っています。

したがって、国民は、テレビを持っていれば公共放送を維持するためにNHKの受信料を払わなければなりません。受信料を払わない方に対してNHKは一所懸命、この受信料を払っていただくよう日々努力を日々しているわけですが、先ほど最初にご質問のありました、どのくらいの支払いがあるのかということではありますが、支払い率は現在地域によっていろいろ差はありますが、全体として73%となっています。したがって20数パーセントの

方がお支払いいただいていないということになるわけで、それについてさらにきちっとしたお支払いをしていただくように努力をしているところでございます。しかし、お支払いいただけない方の中には、極めて確信的にお支払いいただけない方もいらっしゃいますので、その方に関しては民事訴訟を起こすといったことまで行っています。

一方でお金のない、生活の厳しい方がいらっしゃいます。例えば生活保護の方とか、あるいは東日本大震災で被災した方などについては、免除という取り扱いも、制度としてございます。

（北原委員）

石原委員が説明したとおりですが、多少、理屈をこねますと、テレビの受信機を購入した人は、NHKと契約を結ばなければいけないと。放送法ではそういう決まりになっています。では契約を結んだけれども、受信料を払わなくていいのかと言えればそれはいけないので、契約を結んだ以上は、公共放送は視聴者のみなさまのそういう支えによって成立しているわけですから、お支払をいただかなければならないということになっています。

民放はCM収入で成り立っていますけれども、NHKはみなさまにお支払いただく受信料で成り立っています。ですから、「民放しか見ないから払わない」ということをおっしゃる方には、是非、違っているぞと。時間があつたら、六法全書、放送法に書かれているから、それを見てごらん。ということをお願いいただくと、そういう誤解は解けるのではないかと思います。

【会場参加者】

「民放だけ見るのだ」「自分はNHKを見ないんだ」というのもある意味では理屈に合っているわけですよ、ある意味では。技術的にも無理な話だから、そんなことが通るわけない、法律で保護されている。と言うんだけど…、それはもう何をかいわんやですよ。わかりました。

（北原委員）

ぜひともNHKになりかわって、ご説明していただけるとありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【会場参加者】

放送の公平化という意味で、税金で賄うということも、一つの考え方だと思うが、どうか？

【会場参加者】

北原委員から受信機を購入するとNHKとの契約が必要であるとの話があったが、その受信機の定義というのがよくわからない。うちには、テレビは置いていないけれども、携帯電話で放送が受信できるようになっている。資料を見ると、今は8Kなんていう大画面用の技術も開発されているが、小さな携帯電話の画面で見るのも同じ受信料というのは、少々納得いかない。

（吉国専務理事）

まず、税金で賄ったらどうかというご意見がありましたけれども、確かに税金となれば、強い権限で徴収できますので、支払率を引き上げることができるかも知れません。ただ、考えなければいけないのは、NHKは、報道機関であり、公共放送であるということです。一番大事なのは、自主・自律、スポンサーなど、特定なものに偏らず公正・公平に放送を出していかなければいけないということです。税金というのは、時の政府が徴収しているわけですから、公的なものではありませんけれども、私どもはやはり、政府とは独立した報道機関としての役割を果たす、不偏不党という考え方に基づいています。いろいろな課題はありますが、まずは、現在の受信者の方々から直接提供いただく受信料で運営するという形が、一番適当なのではないかと思っています。73%という率は、決して高いとは言えないかもしれませんが、これも、努力をしていく、毎年毎年の契約を増やして、今後も我々の努力で支払率を引き上げていくことが必要だと思います。

我々NHKが、きちんと視聴者に目を向けてやっていくという意味でも、やはり今の制度が、有効に機能するならば、一番いいのではないかなと考えています。

それから、受信機の件ですが、基本的にはNHKの放送が受信できる受信機を持っていらっしゃる方は全て負担していただくという形になっています。先ほど経営委員の方々からご説明がありましたように、受信料は放送を享受する事に対する対価として受け取るのではなく、あくまでNHKという公共放送を維持していくためのいわば特殊な負担金、としてお支払いいただくという性格のもので、放送が受信できれば、支払っていただくというのが基本的な考え方です。

【会場参加者】

放送技術が進み、今は、スマホやパソコン、あるいはその他いろいろな機器で放送を受信する、視聴することが可能となっている。そんな状況の中で、ラジオやワンセグ携帯などで放送を受信している人は、受信契約しなければ

だめだという認識を持っている人が少ないと思う。受信できる機器を持っている人から徴収するのが基本的という話があったが、そうした人たちのことも入った73%という数字なのか、疑問だ。

（吉国専務理事）

支払率は、実際にテレビ受信機をお持ちで契約の対象となる方の数についての資料がありませんので、まず国勢調査等々を参考にして、全体の世帯数を割り出し、各種の調査に基づいて、その中でどのくらいの人たちが受信機を持っているかという推計値を出して計算しています。スマホにつきましては、実際には、テレビをお持ちの方の割合が高いのではないかと思います。

確かにテレビをお持ちでなく、ワンセグ携帯などしか持っていらっしゃらないという方もいると思いますが、それほど大きい数ではないと思います。ただ、推計値を出すにあたっては、実態に基づいて常に見直し、できるだけ正確な数字をつくっていかねばならないと考えています。ちなみに、ラジオは、現在、受信料を頂く対象になっておりません。

【会場参加者】

NHKの経営委員は、12名ということだが、委員数の削減については、どう考えているのか。国も大分県でも議席数の削減という話がよく言われる。経営委員は、皆、大企業や大学の先生などそういう人ばかりになっているが、数の削減については、どう考えるのか聞きたい。

（北原委員）

私が答えるべき資格があるのかどうかわかりませんが、経営委員は12人とする、これは放送法で決まっています。それで、経営委員会の人数をどうする、こうするというのは、経営委員会の役目ではありません。経営委員は、国が選びます。もっと言うと、総務省という役所で地域的なバランス、委員の経歴、学者さんばかりもだめ、弁護士も入れたり、大企業経営の経験者、そういう人も入れたり、そういう構成となっています。それは総務省、内閣で決めることです。ですから、経営委員会で我々が、「12人は多いので、これを9人にしましょう」という権限は全くないので、私が先ほど答える資格があるかどうかとためらったのも、そこに理由があるわけです。そして今、国は12人の定員は多過ぎるので、減らそうという検討をしているかという、全くしておりません。また、経営委員の経歴について、これも学者さんばかりになってはいけないとか、大企業出身の方ばかりというご指摘でしたけれども、ちゃんとバランスがとれていまして、そう変な構成にはなっていないと、

私は考えています。

（石原委員）

12名のうち大企業の経営者ばかりではないか、という話がありましたが、数を数えてみまると、私は大企業の一人かもしれませんが、12名中、企業経営者4人です。それから学者、大学の先生が4名です。それから弁護士が1名、それから作家が1名、そして、北原委員は民放連の元専務理事。竹中委員は社会福祉法人のプロップ・ステーションの代表でいらっしやいまして、そういった、かなりいろいろな分野から選ばれているのではないかと私は思っております。

【会場参加者】

あなた方の考えていることは、もういい。県でもよく問題になっていたり、報道ステーション等でも問題になってるのは、いろいろな国の委員にしても、偉い人ばかりとか、名のある人ばかりがなっていて、これは憲法で言う国民主権に反するのではないのか。誰が考えても名誉職みたいな人ばかりが多く、しかも年を取った人が多くて、若い30代とか、今から生きていく人が誰もいない。これは不公平があるのではないかと思うが、どうか。

（北原委員）

おっしゃることも、わからないではありませんが、経営委員会の議事録が公開されていますので是非一度ご覧になってください。確かに社会的な立場のある方から選ばれているケースもありますが、しかし、その委員が自分の今まで歩んできた道から、あるいは極端に言えば自分の出身企業の立場から、経営委員会の議論をしているかということ、決してそうではありません。立場によっては、あなたのおっしゃったような構成の問題も多少あるかもしれませんが、そういう立場を離れて公正・客観的な議論をやっていると、私たちは自負しております。ぜひ一度議事録をごらんいただいて、それでもなおかつ、バランスのとれていない、偏った、あるいは出身母体を意識したような議論が行われているかどうか、それとも、いろいろな社会的な立場の者が選ばれているけれども、議論の内容を見るとまともな議論をしていると思われるのか、一度検証をいただいた上で、また、ご意見を伺う機会があればと思いますがいかがでしょうか。

【会場参加者】

偉い人が国の委員でも何でも皆連ねているばかりに、我々の生活はいつも脅

かさされ、苦しめられている。一般市民は蚊帳の外、それで意見が反映されない、大分市議会でも市民がそこは言っているではないか。

(司会)

今日はNHKの経営についてのご意見を伺っておりますが、かなり広いものを含めておっしゃっていただいているので、経営委員、あるいは執行部がお答えできる範疇をちょっと今、超えてきているかもしれません。経営委員に関するご意見については、先ほどの北原委員、石原委員からのお答えでご理解いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【会場参加者】

NHKは、私たちが直接行ってみる事の出来ないこと、例えば海中や高い山の上のことなどを放送を通じて教えてくれるありがたいものだと思っている。だから、受信料も皆が払ってくれるといいと思っている。放送技術の開発や電波を全国に届けるための対策など、NHKは放送を支える色々な活動もしているから受信料は払うべきだという話も聞いたことがある。皆が受信料を払ってくれるような、いいアイデアを募集するなど対策ができないのだろうか？

(竹中委員)

受信料の話になると、私いつもお尻がむずむずするというか、顔が赤くなってしまいうんですけれども。実は私は、しゃべり方でわかると思いますが、関西人なんです。先ほど、受信料は、73%という支払率ということでしたけれども、もう少し丁寧に言うと、90%を超える、極めて100%に近い県も地域もあります。沖縄が低いのは、いろいろ事情があるので置いておいて、それを除くと低いのは大阪・兵庫なんです。50%台。大変、恥ずかしいです。関西の何か文化として、「払わないほうが格好いい」「言われて払うのは、無節操だ」といったような何かわけのわからない理屈があったりして、先ほど皆さんがおっしゃったように、みんなの公共放送であるからみんなで負担をして、そのかわりよりよいNHKになるように、みんなでちゃんと見つめて意見も言っていきましょうよと、これが考え方なんだけれども、「うちのNHKだけ抜いていってくれたらいい」とか、いろいろなことを言う人が関西にはいます。集金に伺う方が本当に苦勞もされているんです。ただ、そういう一人一人、受信料を集めに行く方のご苦勞だけでは、もう限界が来ているということで、最近、NHKでは、例えば郵便局に住所変更を出されるときに、NHKにも自動的に一緒にその方の住所が変わったように取り扱うなど、

いろいろなことをやっていこうとしています。もう人の力だけではやっぱり、ノーと玄関払いされてしまったらどうしようもないところがありますので。もちろん、一人一人の意識というのが大事だと思いますので、不公平感がないようにしないといけません。払っている人と払っていない人がいて、払っていないのが「当たり前」になると、払われている方は一体何だろうと思われる。ですから、一人一人がその周りの人に、少しずつでもお声がけをしていただくというか、みんなでNHKがいざというときに自分たちの命も守る情報も出てくる、大切なニュースも入ってくる、それをもとに自分らがどう判断するかというのに決める一つの柱なんだというようなことを、一言ずつでもお声かけをし合っていたらどうかと思います。私も関西ですので、何とかこの50%台を60%台とか平均に近づくように努力はしたいなと思って日々頑張っておりますので、ぜひ今日お集まりの皆さんにも、ご協力いただけたらなと思います。やはり払って初めて言いたいことも言えるというか、言っているんだと思うんです。ぜひそのようにご協力いただけたらと思います。よろしくをお願いします。

(上滝理事)

毎年、住所が変わる方が250万件ぐらいあり、どうやってその住所変更を把握していくかという検討を進めています。今、竹中委員の話がありましたように、郵便局への転居届を書いていた際にNHKにも情報をいただくというようなことなどです。とにかく大都市では不在の時間が多くてなかなかお会いすることができない。何回お伺いしてもお会いできない。そうすると、その営業に係る経費が増えていきます。そうした経費の増をできるだけ抑えて、その上で受信料収入が上がるようにするにはどうしたら良いのか、という検討、取り組みをしております。例えば、BS放送の受信設備を設置いただくと、最初に画面の左下に「BSが映る受信機を設置された方はご連絡ください」というB-CASメッセージが表示されますので、そのメッセージを消去するためコールセンターに電話をかけていただきます。そのときに、電話対応するオペレーターがあわせて衛星放送の受信の契約をお願いするなど、いろいろなアイデアを使って契約をいただくということも今やっています。その上で、NHKを信頼していただく放送、ニュース、さまざまな文化イベントなどを含めて、みなさまの判断の材料となるもの、心豊かな文化を提供していく。それから災害のときのライフラインの一つとして、NHKを使っていただくということで、やはり皆さんにとって必要なこと、NHKの価値を少しでも多く感じていただけるように、日々その信頼を高めていくということが一番の大事なことと感じて努力を続けていきた

いと思っております。

第二のテーマ：NHKの放送について

【会場参加者】

NHKを主体に見ている一人だが、最近NHKの格調が落ちたと感じられる。そういう番組編成になりつつあると感じる。

いわゆる「民放とは違うんだ」という前提からNHKはあるんだと思うが、かつて、テレビが出てきた段階で「国民総白痴化」という指摘をしていた評論家だったが、まさにそれに近い状態が、NHKの番組に見られる気がする。日々の番組でも、得てして同じタレント、アイドルなど、若者、国民に受けるような、まさに民放と同じような顔ぶれが出演する事が多く、何かこういう人たちのためにNHKがお給料を払っているのではないかと感じる。

ついでに一つ、NHK職員は、給料が日本一高いということで削減をしたようだが、受信料は国民、各世帯からの浄財だという観点で考えてほしい。また、最近、ドラマ等では、バックに音楽が入っているが、場面とマッチングしているならともかく、なぜ、音楽を付けつけるのか、疑問に思うことが多い。要らぬ音楽が、見ることを不快にさせていることもあることを考えてほしい。

【会場参加者】

今の音楽の件は、私も同様に感じている。マッチングの件もそうだが、セリフが聞きづらくなるぐらい大きい時もあり、静かにドラマを見たい時や、他の番組でも確かに音楽が多過ぎると感じていたので、今の意見に賛成だ。それから、今、給料が高いという話が出たが、NHKは日本薄謝協会というのも聞いたことがある。他局よりも出演料も少ないというので、儉約しているんだな、頑張っているんだな、と思う。そういう頑張りがいいのかどうかは別にして…。

それともう一つ、私の施設に、NHKが取材に来てくれ、会場を提供したりすることがあるが、せめてテロップに名前を出してほしいというお願いが、叶う時と叶わない時がある。放送に出るとかなり経済効果はあるとことが多いと思うが、テレビを見ているとかなりきちんと出る場合とNHKだから言わないという場合と両方あるような気がする。先日、別府としてはうれしいことだが、『仕事ハッケン伝』で某ホテルが出た際も、これは、しっかりそのホテルであることがわかった。それは、嫌なことではなく、良いと思いま

すが、名前が出る場合、出ない場合の不公平というか、徹底していないのではと思うので、基準などがあれば聞きたい。

(上滝理事)

「NHKは民放とは違うというところをもっときちっと出すべきではないか」「国民総白痴化のような番組が、NHKに見られる」などのご意見をいただきましたが、私どもは、NHKならではのNHKでしかできない、そういった番組づくりをしていこうということを、大切に考えています。一つは、信頼できるニュースということで、『おはよう日本』、そして夕方の『ニュース7』、そして夜9時の『ニュースウォッチ9』といった報道番組、これはきちんとした事実の積み重ねによって皆様に今の社会、今の時代の中でどういう判断をしていただければいいかというその材料を多角的な多様な視点からお届けしているというふうに思っております。番組については、『NHKスペシャル』を軸にしながら、例えば東日本大震災、あれから2年と2カ月が過ぎましたが、復興が進んでいるところ、いまだに復興が進んでいないところ、そして今後、南海トラフ地震による被害想定の見直しと、次に予想される災害に向けてどう向き合っていけばいいかということ、そして、高齢化の問題など今の社会が抱えるいろいろな問題、「孤独死」や「高齢出産」など、さまざまな世代が抱えている問題、世界が抱えている問題などについてお伝えしていると思っております。

もう一つ、ご指摘のあった民放に出てくるタレントと同じ出演者で民放と同じようなことをやっているのではないかという点ですが、これは、一つに若い人たちのNHK離れという現象があります。若者の世代の方々にも親しんでいただけるような番組づくりを考えて、若い人たちにも知られた方を起用するということもございます。NHKでは、硬い番組も、そして娯楽番組も、できるだけ幅広い世代の方々に親しんでいただけるような番組づくりに力を入れているということをご理解いただければと思います。

(吉国専務理事)

タレントの多用、民放化というご批判は確かにいろいろなところでいただいております。我々が一番気をつけなければいけないのは、安易に民放のまねをするような、NHKの公共放送としての足元が揺らぐようなことをしてはいけないということで、その点については肝に銘じております。ただ、今、上滝理事が申し上げましたように放送の演出については、世代によって受け止め方にもいろいろ差があると思っております。そこのところは私達も素直に受け入れて、全てが今までのままがいいということではないと考えています。

例えば『あさイチ』という番組は、最初のころ、色がけばけばしいという批判をいただきました。一方で、以前からNHKの朝の番組については、画面が暗い、という批判もありました。『あさイチ』の開始当初は、色彩が相当強かったために、反発も出たのだと思いますが、少しずつ調整しながらやっていく中で、批判も次第に減り定着したと聞いています。番組は興味本位でやってはいけないし、テーマが公共放送にふさわしいものでなければならぬと思いますが、ある部分、演出など受け入れられるところについては、工夫をしていく必要があるのではないかと考えています。ただ、おっしゃるような、行き過ぎという場合があれば、そういう点はきちんとチェックをして、直すように努めてまいります。

それから、先ほどの企業名の件ですが、例えばどの企業も共通に抱えている課題を代表して一つの会社で紹介するような場合は、あえて名前を出す必要はありませんが、一方で、その企業が独自の戦略を持ってサービスを展開しているというような個別の情報がある話題では、名前を出すのが原則だという考えでやっています。公共放送ですから、ことさらに企業の名前を出すことでPRすることはしませんが、やはり情報としてその企業がどこかということが必要なものについては、きちんと出していくということは徹底していきたいと思っています。

それから、給与の話ですが、NHK職員の給与が日本一高いなどという事は決してありませんが、今回制度改革を行って給与の抑制をはかっている事は事実です。ただ、放送の特殊性として、番組を機械ではなく人が、いわば手づくりでつくり上げるクリエイティブな産業です。良い番組をつくるためには、しっかりした人材を確保しておかなければなりません。また、NHKの職員のうち8割が大卒ということ、年齢構成も高くなっていることから、平均給与が上がっている側面もあります。

勤務の点では、放送を24時間出していること、地震など緊急事態があれば直ちに対応しなければならないなど、大変過酷な面があります。ほぼ、全員が全国採用ですので、結果として単身赴任の比率が非常に高くなっているといった問題もあります。更に民放と比べれば、NHKの給与はまだ低いと思いますので、先ほど申し上げた人材確保というようなことも考えながら適正な給与水準を判断しています。もちろん、ご指摘のように、人件費もみなさまからいただいた受信料で賄われるものですので、決して無駄に使うなどしてはなりませんので、常に、社会水準との比較も考えながら、判断していきたいと思っています。

(北原委員)

もともと私は、読売新聞に三十数年勤務をしており、今から15年前には福岡に本社がある読売新聞西部本社で編集局長をしていました。その後、日本テレビで10年ぐらい、民放の仕事を経験して今、NHKの経営委員をしています。NHKの民放化、いろいろな意見がありましたが、私も非常にその傾向が強いと思っています。ですから、経営委員会の中では、NHKと民放とは目指すべきものが違うでしょうと。NHKは公共放送ですから。どちらかという、理想主義的な側面、日本はどうあるべきなのかとか、老後についてどう考えるのか。経済の問題についてはどう考えるか。現実にある姿より、そこよりもう一歩高いところを目指すような、そういう役割がNHKの役割ではないかと。民放は、人間は朝から晩まで緊張しっぱなしでは疲れてしまいますから、どちらかといえば癒しの部分ですよ。ですが、先ほどからNHKの民放化という形でいろいろなご意見、私も同感の部分が多々あります。もっとNHKは使命と役割を目指して、ある意味では書生みたいなことを言いますけれども、志が必要だと。民放はCM収入で成り立っていますから、視聴率が高くないとスポンサーはつきません。NHKは極端に言えば視聴率が低くてもいい番組をつくらなければいけない。そういう役割もあるわけですが、最近のNHKを見ると、受信料を皆さんからいただく、そのためには見てもらわなければいけないということで、視聴率のほうも低いより高いほうがいいという側面が確かにあります。多少、そっちの方に流れるのは、私はやむを得ない状況だと思いますけれども、やはりNHKの職員が、民放とは目指すべきものが違うんだという志を持って日々切磋琢磨して、みなさまの望むようなあるべきNHKの姿というものを追求をしていく必要があると思います。NHKの番組をつくっている人は、民放を見て育っていますからね。子どものころからNHKを見て育っている人はよほど立派な人で、そういう人はめったにいません。ですから、NHKというのはこういう番組を目指すんだと。こういう使命と役割があるんだということを職員教育としてもっと徹底しなさいということを私は、経営委員会の中で発言して、NHKの人からは非常に嫌がられています。ですから、いろいろな先ほどのご意見、多々私も共感、共鳴するところがあります。

（石原委員）

北原委員の話に私も大体共感を覚えるわけですが、先ほど執行部のほうから出たように、若者のNHKの視聴率がものすごく低いんです。どんどん低くなっています。10代の人たちはほとんどNHKを見ないという数字すらあります。これでは将来、公共放送としての使命を本当に全うできるのかということNHKは本当に危惧しています。やはり若者と60代以上、我々、私も

そうですけれども、見る番組は、かなり違っています。若者に迎合ということではないけれども、若者には、若者が見たくなるような、そういった番組の構成も、やはりNHKとしては考えざるを得ないんじゃないかなと。北原委員もそれを全く否定しているわけではなくて、そこはやむを得ないという感じは言われましたが、我々としてはある程度理解してあげる必要があるかと思えます。正直言って、私自身も時間帯によって、ああ、うるさいなというような感じがして、ついチャンネル変えたりすることがありますけれども、若い世代の視聴についてはこうした観点からも見ていく必要があると思っています。

それからもう一つ、NHKの給与の話。吉国専務理事は給与の担当なんです。今回、NHKの給与制度、長年、変えられなかった給与制度を抜本的につくり変えました。きっかけは、NHKの受信料の値下げだと私は思っています。値下げは一世帯毎となると、そう大きな金額ではないかもしれませんが、NHK全体としては大変なお金額です。値下げによる減収を増収によりばん回を図る一方でコストを見直す必要があり、そういう中で給与制度の見直しも行ったと思っています。NHKの給与は、現実に同業種、東京のほかのテレビ会社と比べると決して高くありません。高くないけれども、給与制度の中には長年の劣化もあります。今、NHKでは、不要な手当を廃止したり、今までなかった全国運用の職員と地方で勤務する職員で給与の差を設けるなど、5年間で、基本的な部分で10%の削減をするという給与制度改革に取り組んでいます。これは、大変、画期的な改正だと私は思っています。

【会場参加者】

NHKには、関係あるかないかわからないが、新聞大手、テレビの大手の各社長たち、経営陣が安倍首相と会食している。巷では、大手メディアが現政権の応援団になっていると言われていたのを承知だと思うが、こういうことは、いろいろな憶測が出ると思う。欧米諸国では、本来メディアには権力者をチェックすることが求められていて、ある意味では日本の大手メディアは、禁じ手をやったわけです。今、ここに私、週刊誌を持っています。どうということが書いてあるかというと「TPP交渉に深刻な懸念。中国産に気をとられるあなたの食卓に米国産。危な過ぎる食材」ということで、日本で許可されていない食品添加物2,200種類の食品添加物が入っているということ。それから24年間、欧州ではアメリカの牛乳を禁止している。そうしたら、ホルモン依存性のがんが減少したという事が書かれています。こういう細かな、本当に国民に有益なことを、週刊誌のほうは載せている。大手メディアの新聞とかラジオとか、それから放送を聞くよりも、週刊誌を見ろと言う人の講

演を聞いたことがあるが、そういうことにならないようにしてほしい。国民にとって大事なことをNHKは報道してもらいたい。

それから、以前、NHKでいろいろな問題がおきた時に、安倍晋三さんたちが、番組に圧力をかけたということが問題になり、NHKの内部告発で当時のデスクが勇気ある話をしてしたが、私はその時「NHKは不偏不党の放送法を無視している」「NHKは大企業にのっとられた」ということを書いて当時の会長に内容証明の文書を出した。NHKには、憲法改悪等で戦前の大本営発表はしてもらいたくない。NHKの財政は弱者国民の視聴者の受信料によって大半が賄われているわけだから、NHKは大企業や大金持ちの保守的な大政党よりも、弱者国民のための革新的な少数政党に目を配っていただきたいと、そういう放送をしてもらいたいということをお願いしたい。

（北原委員）

複雑かつ多岐にわたっているので、ご質問の全部を私がお答えする能力もなければ、また立場でもありませんので、ある部分は執行部に答えてもらいたいと思いますが、マスコミ、メディアはどういう立場であるべきかということについては、ご主旨に全く賛成です。戦前の日本の歴史を考えた場合に、大本営発表に唯々諾々と従った日本の新聞、そのときはテレビはありませんでしたが、新聞各社、いずれもまずかったと総括しています。なぜ軍部の独走を我々はチェックできなかったのかという深刻な反省のもとに、日本の民主主義が正しい方向に進むように、またそういう役割と使命を自分たちも果たそうというのが今のメディア、新聞社、放送局の原点だと思います。その立場はこれからも守らなくてははいけませんし、また守ってくださると私は確信しております。最近一連の、マスコミ各社のトップと安倍総理との会食の件については、NHKではしていませんが、その是非について、この場で論評を加えるというのは、私の立場ではありませんので控えさせていただきます。メディアというものはやっぱり権力をチェックすべきだと。これは全くご説のとおりだと思います。また、その役割は、十分ではないかもしれないけれども、私は、果たしていると考えております。

それから、NHKの報道なり、番組制作についてのご注文がありましたけれども、これは執行部からお答えしていただくのが適切だと思います。決して安倍さんに言われてうんぬんということはありません。

また、週刊誌を非常に高く評価しておられるようですが、日本の報道機関で何を信用するかという各種の世論調査を見ると、信頼性では、週刊誌よりはるかに上に、新聞、テレビは位置しています。週刊誌も売れなければなりませんので、ある程度おもしろおかしく書いている部分があります。新聞テ

レビへの対抗意識もあるでしょう。どうかそのまま盲信されないように、批判的な観点からお読みになることを私としてはお勧めします。

（上滝理事）

私どもが、公平・公正、自主自律をいかに大事に肝に据えて仕事をしているかということをお話しさせていただきます。NHKは放送法に基づいて仕事をしておりますが、一番大事なところに、全国民の基盤に立つ公共放送として、何人からも干渉されないということがあります。そして、不偏不党の立場を守ると。放送による言論と表現の自由を確保するというのを、国内番組基準として定めています。そこが一番根っこにあるということで、仕事をしております。その上で、政治上のいろいろな問題については公平に取り扱う、そして意見が対立している問題、今、憲法改正のお話もありましたが、そういった問題についてはできる限り多くの角度から論点を明らかにして、意見が対立している点、さまざまな意見をそのままお伝えし、多くの角度からその論点を明らかにしていくということが、私どもは、大変大事なことを考えています。そして、私どもはそうした論点の明確化、事実の積み重ねによって、視聴者の方々それぞれに判断いただく材料をきちんとお届けすることが大切だと考えています。最後に判断いただくのは視聴者の方々でありますし、その方々が選挙という形で国政にご自分のご意思を伝えていくという形になるわけですから、申し上げた「判断となる材料」を提供していくということが、我々自身がすごく大事に思っていることです。

また、外からの評価として、NHKは「公共放送としての役割を果たしているか」ということを客観的にチェックしていただくための調査を若い方からご年配の方まで、全国の視聴者のみなさん3,600人を対象に、アンケート調査を行い、年2回、14の指標、項目で評価をいただいています。

これは、「公平・公正」や、「緊急・災害時の迅速、正確な情報提供」「社会的課題の情報共有」などといった項目や「文化・芸術の発展」や「人にやさしい放送」をしているか、といった社会への貢献度などについても評価をいただいています。そうした、公平な、客観的な評価が働くようにして、自分たちの仕事が本当に皆さんに届いているかということをチェックしております。また、その調査では、今申し上げました項目について、どれだけNHKに対して期待しているのか。その期待に対してNHKはどれだけ応えているのかということをお伺いしています。「NHKは公平・公正な放送をしているか」ということに対しては、82.5%の方が期待しているとお答えいただき、さらに、それを実現しているかということについては82.3%、その差はわずか0.2、つまりほとんどの方がそれはきちんとやっていると評価をいただい

ております。「正確で早い情報提供がなされているか」については、85%の方が期待していて、それに対する実現度については77%の方が、できているというふうにお答えいただいています。自分たちはきちんとやっているつもりでも、それを見ている方々が実際どういうふうに感じているかという客観的な評価を自分たちの仕事に関する大事な物差しとしているということを紹介させていただきました。

それからもう一つ、放送番組が本当に適正に作られているかという点では、放送番組審議会という仕組みがあり、集まっていたいただいた外部の有識者の方、さまざまな学識経験者から辛口の意見をいただいたり、番組批評をしていただいています。そういった審議会の意見もいただきながら、私たちの向き合い方が本当に正しいのか、公共放送としての役割りをきちんと果たしているのかを常日ごろからチェックしているということをご理解いただければと思います。

【会場参加者】

私はNHKには大変感謝をし、大変だろうなと思って見ている。例えば今、登山家の三浦さんがエベレスト登頂に挑んでいるが、我々が全くあずかり知らない場所まで、カメラが同行し撮影する技術を持っていること、一方、非常に貧しい方や病人の方など社会的弱者への取材や、紛争地帯など非常に危険なところにも記者が行ってくれることで我々が知らないことを知らしめてくれる。どうやって取材したり、物事を捉えているのか、感心したり驚いたりしながら見ている。

それから、これはお願いだが、最近の出演者には、赤い髪を肩まで伸ばした男性や、ピアスがきらきらした男の人とか、あるいは面をかぶって出てくるような人が多く、ドラマならともかく、トークショーなどに出演しており疑問だ。もっと人材がいるのではないかと思う。

テレビが世間に与える影響は非常に大きく、子供にも影響していること等申し上げるまでもない。だから、そういう人たちには、もう画面に出てもらいたくないと思う。また、これは民放に多いのだが、事件や、人を殺さなければドラマにならないのだろうか、NHKはあまりないかもしれないが、窃盗、強盗、犯罪の手口を全部教えているようなドラマもあり、若者に受けるようなドラマとか、視点を変えてできないものかと思う。社会に悪影響を与えるようなことは、排除をお願いしたい。

(吉国専務理事)

NHKには、日常から山岳訓練をかさね、機材を背負いながら山岳での取材

ができるカメラマンがいます。また、潜水訓練により、深いところに潜っての取材が可能なカメラマンなども養成しています。

特殊な場所での撮影で一番大事なものは「安全」で常に万全の注意を払っています。海外の取材は特にそうで、イラク戦争の際もいろいろな場所で治安が悪化し、バクダッドで取材を続けている日本の報道機関がNHKだけになったことがあります。このときも外出を極力避けたり、安全な場所を常に調べた上で取材活動するなど、細心の注意を払って取材を続けました。こうした状況下では、長くその環境の中に留まること自体が精神的に厳しいため、要員の交代をしていかなければなりません。そのための移動がまた困難で、テロに遭わないようにといったことにも注意しながら進めてきました。また、非常に厳しい本当に危険な時には、撤退する、引き上げるという決断をしなければならぬ事もあります。そうした見極めをきちんとしながら、視聴者に伝えなければならない映像や情報を取材しています。

それから、ご指摘のあった赤い髪、ピアスというのは具体的にどなたかわかりませんが、面をかぶっているというのは、大相撲の番組のことでしょうか？この解説をされた方について言いますと、相撲に関して大変、知見を持った方でコメントも適切な方ですので、見た目だけで排除するという事はいかがかと思えます。やはりその人の本質というのを見ながら判断すべきだと考えています。もちろん、放送法にも書いてある通り、公序良俗に反するようなものはだめだということではありますけれども、我々がコメントを頂きたいと考える専門家の中には、髪を染めている方等、いろいろなファッションの方もいらっしゃると思いますが、そこは、いろいろなことを判断しながら必要な方、ふさわしい方にご出演をいただくということになるんだろうと思えます。

（竹中委員）

先ほどから針のむしろに座っているような気がします。私も「あんたの頭は何やねん」としよっちゅう言われます。関西人という頭もタイガースかと言われたりもするんですが、いろいろな諸事情があつてのファッションなんです。今、ファッションというのは大変、多様になっていまして、昔、ツイギーという海外のファッションリーダーが来てミニスカートというのをはいていたときに、やはりもうすごいショッキングで、あんな足を出してと、まして女が膝なんか出してという批判もありましたが、今は、短いも長いも全く自由になりました。ピアスもご年配の方からすると、いかがわしそうに思われるかも知れませんが、ファッションに関する感覚というのは年齢によって相当受けとめ方が違うと思うんです。ですから、先ほど吉国さん言われた

みたいに、公序良俗に反するとか、明らかにこのことによる悪い影響が広がっていくようなことはともかく、ファッションに関しては余り決めつけないほうが良いように思っています。自分を弁護しているみたいですが、私もこの頭でNHKの経営委員、本当にいいのか聞きました。私は今、重い障害のある人がコンピューターを勉強して働ける、仕事をして稼げるようになろうという活動を20年以上やっています、自分自身も重症の娘がいるんですけども、そういう活動に基づいた意見を経営委員会の中で生かしていただいたら、頭は問いませんと言っていただきました。先ほど、偉い人ばかり選ばれるというような意見もありましたが、全く違います。私のような者もいてNHKでは、今、いろいろな意見をきちっと求められる状況になっているということをご理解いただけたらいいかなと思います。

【会場参加者】

それはわかるが、影響があることはやはり考えてもらいたい。もう世の中がそうになっているんだと言ってしまえばそれで終わり、テレビというのは本当に影響が大きいので、できるだけそういうことにならないように、変えられるものは変えてほしいということをお願いしたい。

（吉国専務理事）

テレビの影響力については、我々も常日頃から十分注意して対応していますが、ご意見があったということも踏まえてこれからもやっていきたいと思えます。

【会場参加者】

私は、最近まで介護の仕事をしていて高齢の方や障害のある方と会っているが、NHKの『バリバラ』という番組を見て最初は本当に奇異に感じたけれども、見ているうちに、いろいろな意味で勉強になった。また、『100分で名著』という番組も15分ぐらいの番組だが、その中にエッセンスがたっぷり詰まっていて、翌週が楽しみでならない。ともに、NHKらしい作り方をしていると思う。また、今、番組には、字幕が出る。言葉でわからないときに字幕と一緒に見ると、どういう内容だったのかということ、例えば方言があった場合にどういう方言なのかなというのがわかるので、NHKの姿勢というか、障害者の方々に対してもわかりやすく、公平につくっていると感じる。最近見た番組の中では、定点でカメラを据えて制作する『ドキュメント72時間』が、いろいろな人の人生の機微が見られて大変勉強になる。

先ほど「公序良俗に反するものを排除しろ」という話もあったが、個性が

あっていいと思う。健常者から見た視点と、障害者の視点とは違いがあり、若い人も年配の方も違う。それらを含めて一生懸命つくって出している姿勢というのを、こちらのほうがまず認めて、その上で批判なりするのはいいが、最初から批判すると見る目が全く違うと思う。先ほど話に出たことも確かに一理あると思うが（私も批判しているのではなく）、人のいろいろなものをまず認める目を持って、その上で自分の中で吸収したいというふうに考えている。

それから最近では、ビデオに録画して番組を見る人が多く、ビデオ録画は、視聴率に反映されないこともあり、テレビの視聴率は下がる傾向にある。大河ドラマ『平清盛』も視聴率が悪いということがあったが、視聴率が悪いことと番組自体の質は一緒ではなく、率に惑わされることなく、自分自身の感性、信念があれば、納得して見る事ができると思う。

【会場参加者】

私は地元の地方紙の放送担当記者を50年程勤めたが、今日のような会は記憶になく、もう少し沢山こうした機会があると良いと思った。50年を振り返ると公共放送が輝くというか、非常に注目されるのは、県政が大きく動いた時で、大分県では、1973年の「新産業都市二期計画」だったと思う。賛否両論の議論が湧き上がったが、その時、大分放送局では、3時間程の生中継を行なうなど、話題になったことを記憶している。文化の面では、県民オペラ「吉四六昇天（きつちよむしょうてん）」という民話を主題にしたオペラを大分局で全幕録画中継をやり非常に大きな反響を呼んだということもあった。また、教育では大分にあった進学校の合同選抜に関する是非についての討論番組の放送など、政治経済、文化、それから教育に関する大変良い番組を放送したことを思い出す。

今日、ローカル放送のところは余り話題にならなかったが、今のローカル放送の時間は、短い。昔は、朝の全国ニュースに続いて『話題の窓』『スタジオ102』と続いて放送があり、視聴率も高く、職場の話題ともなっていた。いつの間にかローカルを散らして、中央集権的になってしまったのが非常に残念。放送法では、全国放送とともにローカルにも力を入れなさいということが書かれているのだから、ローカルの放送のあり方を変えてほしいと思う。不定期で、30分、75分の番組はあるが、月に一、二度だけで、是非、毎日のローカルニュースの充実を要望したい。中央と地方との関係で難しいこともあると思うが、是非、考え直してもらいたい。

（早見大分放送局長）

ご意見ありがとうございます。ローカル放送については、今お話のあった通り、今から40年くらい前に新産都大分あるいは「吉四六昇天」という市民オペラを放送したことを私も承知しています。時代が変わったからということではありませんが、NHK大分放送局も全国に大分の番組、地域の番組を発信するとともに、全国で起こっていることを各地にお知らせしなければなりませんので、全国のニュースも同じように発信しています。大分だけが常にローカル放送をやっていくということではなくて、少しずつその時間配分が変わってきたということです。

昔とは変わりましたが、今は、夕方の6時台のニュース、それからお昼前の15分の情報コーナーがごさいます。お昼のニュース、今ご質問ありましたように、朝のニュースが少ないということですが、いろいろな情報がある中で6時55分から、それから7時45分からの6分間、少ない要員の中で大分県内の事件、事故、問題を取り上げ、放送しています。

昔のように、朝の編成が戻ってくるかという事についてはこれから、いろいろと状況が変わってくると考えています。メディア環境も、今はNHK以外に民放局が3局、そしてラジオ局が1局、それからケーブルテレビ局と変化していますので、その中で我々は勝負をしていかなければなりません。質の高い、皆様方に納得できる番組をつくっていきたくと心がけております。

もう一つ、お答えになるかどうかわかりませんが、先ほど少しご意見をいただきました地域発全国向けに番組もつくっております。平成23年、大分放送局が単独で制作したドラマ『無垢の島』に続き、今年は、『今日も地獄でお待ちしています』を放送しましたが、豊後高田をテーマとした、ドラマ制作を今、計画しています。3年連続で大分発のドラマを全国に発信しようと考えております。また、『鶴瓶の家族に乾杯』や、火野正平さんの『にっぽん縦断 ころろ旅』、地域の特産、特産品を含めた有名な一品を全国にお伝えする『イッピン』という番組も控えており、幅広く大分の特徴を全国にお伝えできるよう頑張っている次第です。どうぞご理解いただければと思います。

【会場参加者】

NHKの民放化、低俗化という話があったが、最近では、マンネリ化もあると思う。『ごきげん歌謡笑劇団』や歌謡番組も、またニュース番組の構成も、いつも同じようなスタイルで番組をやっていてマンネリ化しているように感じる。

(吉国専務理事)

今のご指摘に関しては、そういうご意見があったこともふまえて内部の検討に生かしていきたいと思います。

(司会)

本当に活発なご意見をいただきまして、ありがとうございます。それでは最後にこの会全体を通しての感想、これを竹中委員からお願いいたします。

(竹中委員)

本日は皆さんから貴重なご意見をたくさんいただくことができ、本当に大分に来させていただいてよかったなと改めて思っています。

地域の力、放送の力ということで、今、NHKは地域放送にも力を入れています。今日のご質問、ご意見としては出ませんでした。来年の大河ドラマは『軍師官兵衛』を放送する予定で、地域のみなさんの大変求めておられた方がテーマに取り上げられる放送が始まります。余談ですけれども、官兵衛は、姫路でも活躍しましたので、兵庫もちょっと勝負させていただきたいなと思ったりしておりますが、何はともあれ、NHKの放送、番組がたくさん国民の生活に喜びを与えてくれることもあるし、希望を与えてくれることもあるし、学ぶこともあるし、聞きたくないニュースだけというようなこともあるかと思えます。ですけれども、今日のように本当にお一人お一人の方が真剣にそれぞれのお立場で、受信料を払ってくださっている視聴者としてご意見をいただけたと思えます。それでこういう機会が、全部の放送局を順番に回っていくので本当に先ほどご意見があったように、多分、次にここへ来るときというのは数年先の事になってしまいます。けれども、それぞれの局の放送は継続していて、厳しい意見もお持ちの方もいらっしゃいます。今日、こうして直接お声を聞かせていただいたこと、必ず持ち帰って、NHKの執行部全体、それから後の経営委員12人おりますけれども、残る経営委員全員にもきちっと伝えて参考にさせていただきたい。そして、よりよいNHKになるようにご一緒に頑張っていければなというふうに思っております。本日は本当にありがとうございました。

<視聴者のみなさまと語る会in大分>参加者当日アンケート

参加者数 59 名

回収数 56 枚

→質問1:性別

男	女	未記入
39	10	7

→質問1:年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未記入
0	1	3	12	12	12	14	2

→質問2:今回のイベントを何でお知りになりましたか(複数回答)

放送(テレビ)	放送(ラジオ)	HP	新聞	知人	その他
13	2	15	9	12	12

→質問3:今回のイベントに参加していかがでしたか

大変満足	満足	普通	不満	大変不満	未記入
11	26	8	4	1	6

→質問4:印象に残ったコーナーはどこでしたか(複数回答)

経営重要事項	経営全般	放送	トークショー	未記入
1	15	16	28	8

→質問5:NHK経営委員会の仕事を知っていましたか

よく知っていた	知っていた	知らなかった	未記入
3	23	29	1

→質問6:今回のイベントに参加して、NHK経営委員会の活動について理解が深まりましたか

深まった	変わらない	わからない	その他
38	13	3	2

経営について

- ・経営委員会は、単なる経営委員の『お飾り』（世間ネーム等）で構成されるものではない。本日の一般参加者のほとんどが、不満をもっていることは確実である。
- ・経営委員、執行部ともそれぞれの立場で取り組まれている姿が拝見（拝聴）出来て大変よかった。ご説明が非常に分かりやすく好感できる。
- ・やっぱりわがままな発言がたくさん出てきた。委員のみなさんは、このような意見にも対応しないとイケないので大変かと思います。公共放送であっても税金から予算を取れない、それがゆえに自主性、自立性、問題提起などが出来ることが理解できた。これからもほとんどNHKしか見ておらず、この先もNHKの経営方針に共感し、見続けていくと思うので、健全経営を続けていただきたい。今回の参加で委員の方々、理事の方々が責任をもってNHKを良くしようとしていることをわかって良かった。
- ・経営全般のテーマの中で、NHK職員は高給すぎるのではとの厳しい声があったが、思い出したのは、前田義徳という会長の時、衆議院通信部会に呼ばれ、「人件費が高いのでは」と委員に詰問されたことがある。その時、会長は「NHKは人材が最大の財産である」と言っていた。その人材が長年にわたって「協会」を支えて来たと思う。
- ・経営についてそれぞれの立場になって努力されている様子。意見を聞くこともですが、事前に提出された事柄について、今後の取り組みの中に活かしていくか発表してほしい。公共放送について、厳正に守ってほしい。
- ・民放全般を含めて、放送のリーダーになれるように努力してほしい。

放送について

- ・「軍師官兵衛」の放送に感謝しています。ぜひ、九州の枠を多く、またゆかりの地等で大分をたくさん取り上げていただきますよう、重ねてお願い申し上げます。
- ・公共放送という事で、国民から受信料を取るのですから、受信料不払いをするような非公共的な事をしない公共心を養うために、伝統に培われた規範や文化に基づいた放送をお願いします。質疑の中に「戦中の大本営」への迎合、「（視聴率の為）若年層」への迎合などへ指摘がありましたが、本当に公平・公正な放送をしてください。おかしい迎合はしてはなりません。その意味で、現在の放送は「団塊」への迎合、「国民主権」（日本国憲法、戦後民主制度）への迎合でしかありません。早く糺してください。
- ・ニュースをもっと改革し、いいニュースにしてほしい。きちっと自民党・公明党政権党の批判ができるニュースであること。番組は昔よりよくなっているが、もう少し楽しい番組を作って欲しい。
- ・大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映、大分市民、中津市民として心からうれしく思い

ます。この放映を機に、大分県が益々有名になり、多くの観光客を誘致でき、地域経済が潤うよう願っています。また観光に携わる者として、その責任の重さを感じ、精一杯事業遂行に励みたいと思います。本日は、参加させて頂きありがとうございました。

- ・NHKは弱者ばかりたたくようなニュースはやめてほしい。NPO・市民団体・弁護士会からも出ている。
- ・公共放送の大変さがわかったが、若い人が見れる番組、だからこそ若い人に媚を売らない番組。
- ・大河ドラマや紅白など、NHKじゃないとダメ的な番組も多数あるので、もっともっと頑張ってもらいたいと思います。期待しています。
- ・民放では出来かねる番組に取り組んでください。「課外授業 ようこそ先輩」など、見てもらえる時間帯にしてください。若者対象の番組はほどほどで、重みのある番組作りはいかがでしょうか。「Nスペ」、「プロフェッショナル仕事の流儀」ととても楽しみで見えています。
- ・地方の時代です。ローカルニュースを少しでも多くお願いしたい！
- ・NHKの民放化ではない、低俗化である。タレントの選び方、番組のマンネリ化、アナウンサー・記者のレベルアップ。
- ・家族とTVを見ていても、同じNHKを見ても見る番組が異なります。NHKスペシャルや家族に乾杯などは一緒に見て楽しんだり、意見を交わしたりしていますが、タレントの言葉づかい等については30代でも見ていて気になることがあります。何でこのタレントさんが選ばれたのかな？と思う人選の時も正直あります。年配の方は特に気になると思います。
- ・あまちゃん面白いです。私のまわりでは好評です。岡田くん演じる「軍師官兵衛」も楽しみにしています。
- ・ドラマ官兵衛の中津でのロケをお願いします。
- ・ローカル番組を多く作り、地域活性のために、地域に出向いて、取材してほしい。
- ・TVが子供に影響があるからこそ、世の中の新しい動きを見せたいです。そんな意味から、“日曜美術館”でも現代美術を取り上げて欲しいです。
- ・社会に与える影響を常に配慮してもらいたい。
- ・大分局の番組は民放の比ではなく立派な番組制作です。

運営・その他について

- ・こうしたミーティングを大分局レベルでも行ってはどうか？人数が多くなると話がまとまらないため、視聴者モニターを対象にとか・・・。
- ・事前アンケートの集約、大変よかったですと思います。討議の内容をそのアンケートを中心にすればよかったですのではないかと思います。発言者の多くが、自分の思いばかりを

発言されて、内容に深まりがなかったように感じられた。

- ・ 質問する者も回答する者も1人が長くしゃべりすぎである。話が長くなったら、アナウンサーが注意すれば良いのに、発言者がしゃべりっぱなしであった。回答する者も話をまとめてしゃべっていなかった。この集まりの趣旨を考えて、多くの人が発言できるようすべきである。
- ・ 本日は貴重な会に参加させていただきありがとうございました。生の野村アナウンサーにもお会いでき、嬉しく思いました。沢山の年配方の活発なご意見、地元の年配者達と変わらない頑固さに頼もしいものを感じました。面と向かっては申し上げにくいのですが、経営委員の方々も一新してはどうでしょうか？偏った考えだけでなく、幅広い視野を期待しています。
- ・ 参加させて頂きありがとうございました。NHKの内容により一層関心を持ちました。あまり良くない番組は削除してもらい、格式重んじる公共番組に変わって欲しいものです。時々、印象深い番組に目を見張る時もあります。NHKの正しい放送に期待しています。感謝。
- ・ 話が長いですね。もっと効率よく質問でき、応答できるはず。年寄りの話をまとめてから話させるべき。思い出話なんかカットさせるようにしないと時間がもったいない。民放3局？愛知は恵まれてますねえ～。
- ・ 中村CPのトークショーも楽しかったです。現代の企業に例えたお話はわかりやすかったです。戦国時代はビジネス書に劣らない、仕事にも参考になるエピソードがあります。楽しみです。
- ・ 参加者の中には、何か勘違いの人もいたようである。NHKなら言わせてもらう的な、公共なものなので、だまって放送料を支払うのが本当であると思う。73%は非常に少ない数字であると思う。難しい面も色々あるだろうが、せめて80%以上まで頑張ってもらいたい。
- ・ 時間の関係で残念ながら発表できませんでしたが、いろいろな意見があるものだとハラハラしました。トークショーはプロデューサーの人柄の良さで、これからは楽しみにになりました。NHKの番組を中心に視聴している私にとって、貴重な一日となりました。
- ・ NHKの地方都市行脚は深い意見があると思います。今後も続けて頂きたいと存じます。
- ・ 司会者が質問については1分くらいと最初に言っていたのに、長々と話した人がいた。他の人のことを考えて、短めに話すべきだと思う。もっと多くの人に質問の時間を与えてほしかった。
- ・ 満足度を「ふつう」としたのは、Qのつまらなさに起因しています。と書いたら、今ファッションを理解していないみたいな酷い意見が出て、急に面白くなりました。いろんな人がいることがわかりました。NHKさん大変ですね。

- ・このような機会を多く作って頂き、その必要性を訴えるべきだと思う。
- ・発表者の自慢話が長すぎて、要点が少なすぎた。また、答弁者ももう少し手短かに。
- ・発言は1人1回にして、もっと多くの声を吸い上げるような司会を期待したい。
- ・テレビ、ラジオでどこを信用しているかと問われればNHKと答える。よい番組を作ってもらうために、こうした催しは必要です。発言はしなかったが、アンケートで読んでもらい満足しました。
- ・事前アンケートに「おはよう日本」の鈴木アナ、鹿島アナのやりとりに関して批判がありましたが、私は全く反対の意見です。鈴木アナ、鹿島アナ、これからも頑張ってください。応援しています。NHKの皆様の平素からのご努力に感謝申し上げます。今後もNHK経営委員の活躍に祈念いたします。
- ・情報不足の地域に住居を構えて数年ですが、普遍的なニュースに感謝いたしております。今日参加させていただき、日本放送協会の存立の意味を一応なり年1回なり広報する必要があるのではないのでしょうか。参加される方の意識の問題かもしれませんが、いろんな方がいるのだと思う事が出来そうです。
- ・NHKの役割、あり方、受信料のバランスの中でかかえているジレンマと日々取り組み、悩んでいることがわかりました。最近の番組でも視聴者と共に考えて訴えかけるような番組でも見受けられます。視聴率、テレビ離れ等、一緒に考えて成長・改善していこうという姿勢に共感しております。うちはNHK、NHK-BSのみです。予算の削減による質の低下だけはさけていただきたく。今後も応援してまいります。今回の討論会のような活動も含め、引き続きお願い申し上げます。
- ・こういう会を定期的を開催していただきたいと思います。そうすれば、要望しやすくなりますので。NHK大好きなので、今後の番組作りに大いに期待していますし、「NHKはお堅い」を通してもらいたいです。それが本来のNHKなので、それで良いと思います。
- ・視聴者と経営委員、執行部との話し合いははじめてのことでしたが、大変有意義でした。今後も定期的にこのイベントをしていただきたいと思います。